

# ベビーベッド

a2200419 鈴木 朱里・a2200420 鈴木 真理子

## 【背景と目的】

今回の研究きっかけは、睡眠に興味があったからです。人は人生の三分の一睡眠すると言われていて、特に、幼少時代の睡眠は成長に大きく関わる重要な時期です。そこで自分で寝返りができず、寝具を選ぶこともできない赤ちゃんに、より良いベッドで寝てもらいたいと考えました。赤ちゃんの使う身の回りの物は親が使う物でもあります。赤ちゃんにとって快適に使える物が求められていると思います。しかし、現代においてベビー用品の発展が進んでいる中、ベビーベッドに対する不満や使用後の処理などのクレームがあります。そこで、私たちはベビーベッドを研究し新しい物を提供したいと思いこの研究を始めました。

## 【制作過程】

- 睡眠の調査
- アンケート調査
- 市場調査
- 問題点の提示
- コンセプト決定
- JIS規格との検討
- アイデア展開
- モデル制作

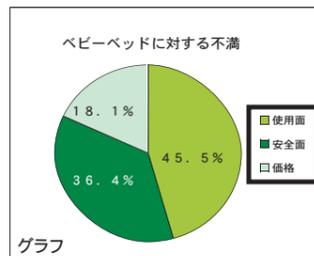
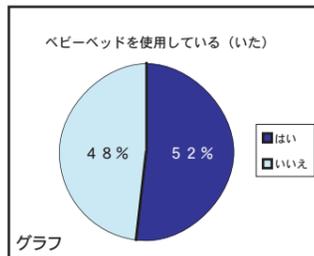
## 【睡眠調査】

月齢	睡眠時間	特徴
0~1ヵ月	約16~17時間	生まれたばかりの頃は昼夜の区別無く不定形。夜1回に眠る時間は3時間半くらい。
1~2ヵ月	約16~17時間	睡眠と目覚めの時間帯がだんだん分かれてくる。夜1回に眠る時間は6時間くらい。
2~3ヵ月	約15時間	昼に目覚めている時間は約8時間。夜の睡眠時間がだんだん長くなっていく。
4~5ヵ月	約14時間	昼に目覚めている時間は約10時間。夜の睡眠が主となり1回に眠る時間は8~10時間。
10~12ヵ月	約13時間	昼に目覚め夜に眠るというリズムが定着。昼寝は2回程度に。

上の表は、生まれてから1歳までの赤ちゃんの平均的な睡眠時間と睡眠の特徴をまとめた表です。この表から赤ちゃんは10~12ヵ月には眠る習慣が定着し、昼寝は一日に2回程度になることから、ベビーベッドが多く使われる時期は1歳までだと言うこと、ベビーベッドを使用する期間は予想よりも短いことが分かりました。

## 【アンケート調査】

次に、ベビーベッドを使用している人の割合、ベビーベッドに対する不満点、その後の使い道等を知るために、アンケート調査をしました。ベビーベッドを使用状況、ベビーベッドに対する不満・価格・ベッドの形・使用後など12項目について質問しました。又、ベビーベッド以外を使用している場合は何をを使用しているか、さらにその利点を質問しました。



(対象:デザイン情報コース1・2年生、保育園の親総数50名)

### グラフ [ベビーベッドの使用率]

使用している人が52%とおよそ半分の割合だということがわかりました。使用していない人の大半はベビー布団を使っていました。その利点として場所をとらないというのが、最も多かったです。また、ベビーベッドの多くがリース使用者であることがわかりました。その理由として、その後の使い道に困るという意見が多くありました。

### グラフ [ベビーベッドに対する不満]

最も多かったのが使用面に対する不満でした。多かった意見として「使用しなくなったら邪魔」「柵がぐらぐらして危険性を感じる」など現在市販されているベビーベッドに対する様々な意見がありました。

### 【その他】

ベビーベッドの種類はスタンダードタイプがほとんどで、折りかごタイプとベビーベッドを両方使用していた人も数人いました。使用後は、譲る方がほとんどでした。又、今回のアンケートでは、全ての人が木製のベビーベッドを使用していました。

### 【調査のまとめ】

今回このアンケートで使用者は今よりも安全性の高いベッドを求めていること、そして母親を代表とする使用者にとっても使いやすいベビーベッドが求めていることがわかりました。



スタンダードタイプ

## 【コンセプト】

赤ちゃんが気持ちよく眠れるベッド	揺れるベッド
安全面を考慮したベッド	開閉部分の強化
使用者にとって使いやすいベッド	高さ調節が可能なベッド
使用後の有効活用	子供向けラック

## 【結果】

上記のコンセプトに基づいてデザインした右の完成予想図示すとおりです。

今回ベビーベッドの制作をするためにJIS企画を参考にしました。最初のアイデア展開では不満点の多かった柵の形をデザインしなおそうと考えていましたが、JIS企画を読んだ末、一番妥当なのは現在の形だということになりました。その結果、見た目は従来のものとあまり変わらなくなってしまいましたが各箇所に工夫を施しました。主な特徴は以下の通りです。

### 赤ちゃんが気持ちよく眠れるベッド

最初に考えたテーマは「揺れ」です。揺れには赤ちゃんに対する睡眠効果があることがわかり、揺れるベッドを検討しました。その結果、ベッドの床板の間に押しパネを4隅に置くことにより、赤ちゃんの動きに合わせた揺れを生じさせることが出来るようになりました。

### 安全面を考慮したベッド

安全面を考慮して、アンケートで不満の多かった柵の補強を考えました。現在市販されている開閉部分の固定方法は2本のネジで止めてあるだけなので、固定するネジの数を増やし、安定させる事によって安全性を高めました。

### 使用者にとって使いやすいベッド

使用者から不満の多かった高さの改善を考えました。しかし、JIS規格では、床面から床板までの高さが500以下と決められており、床板を上げられませんでした。したがって、500から下での3段階調節としました。

### 使用後の有効活用

使用後の活用法としては、子供向けのラックを考えました。ベッドとして使用した後、床板と3段階調節機能を活用して簡単にラックに変えられるようにしました(右の図)。

ラックとした理由としては、子供の成長過程で必要な家具であると同時に、子供に片付けの習慣をつけさせるという点でラックがふさわしいと考えたからです。

## 【考察】

今回、ベビーベッドのデザインをしてみてベビーベッドのリースが普及している中でも、ベビーベッドを購入し使用している人が多い事がわかりました。ベビーベッドは一つの思い出となる家具であり、物理的には長く使用できるものです。他の人に譲り、譲られるのも一つの方法ですが、子供の成長に合わせて変化させる事により長く有効的に使用することが望ましいと思いました。

今回実際に専門店に行き店員さんから話を聞いたりして、赤ちゃんにとって何が必要であり、どうすることが大切なのかということが学べました。また、アンケート調査をしたことにより、使用者が実際に使ったからこそわかる不満点や不便に思うところを聞かせてもらい本当に参考になりました。ベビーベッドを実際に作るのには、JIS規格に基づくように考えれば考えるほど、従来のデザインが上手く当てはまり、新たなデザインを考えるのはとても困難でした。

